

2022 年度日本認知症ケア学会・認知症ケア賞 功労賞



野 村 豊 子 (のむら とよこ)
日本福祉大学スーパービジョン研究センター

【授賞理由】

野村氏は、回想法やライフレビューの研究・実践に永年を費やし試行錯誤を重ねられました。「時を結ぶ」という独自の考え方を生み出し、それを基にしたコミュニケーション技法は単に認知症の人の過去・現在・未来を結ぶだけではなく世代間交流などの地域を結ぶ考え方として多面的な発展をみせています。これらの活動は、認知症ケア賞（功労賞）受賞が相応しいといえます。

【略歴】

1972 年 4 月～1974 年 11 月まで	東京女子大学文理学部助手
1988 年 1 月～1995 年 3 月まで	長谷川病院チーフソーシャルワーカー， 老人社会事業科長
1995 年 4 月～1998 年 3 月まで	東京都老人総合研究所客員研究員
1998 年 4 月～2007 年 3 月まで	岩手県立大学社会福祉学部教授
2007 年 4 月～2016 年 3 月まで	東洋大学ライフデザイン学部教授 東洋大学大学院社会福祉研究科教授
2016 年 4 月～2020 年 3 月まで	日本福祉大学社会福祉学部特任教授 日本福祉大学大学院特任教授
2020 年 4 月～2022 年 4 月まで	日本福祉大学スーパービジョン研究センターリ サーチフェロー

【褒賞】

- ・ 国際回想法ライフレビュー学会より The Robert Butler and Myrna Lewis Exemplar Research Award 受賞（2011 年 11 月）
- ・ 日本認知症ケア学会平成 15 年度石崎賞受賞（2003 年 6 月）
- ・ 日本認知症ケア学会平成 13 年度石崎賞受賞（2001 年 6 月）

【活動内容等】

活動目的：

認知症の方自身の思いや考え方について、その人から見える視点を最も重視し、周囲の関わり合う他者が、認知症の方の個性豊かな表現を含めて、表情・言葉等を通して理解し、共有することがどのようにできるかについて、40 年近く試行錯誤を重ねてきた。具体的には、次の 3 点が活動の目標になったと考える。

第一に、認知症高齢者への心理・社会的アプローチ、及び、幅広くケアの方法の1つとして、回想法やライフレビューの研究、教育、実践、効果評価に取り組み、特に、実践上の倫理について検証することであった。

第二に、コミュニケーションとは何かという基本の探索と、対人援助専門職のコミュニケーションについて、価値観やスキル、さらに、専門職として習得するための具体的なトレーニングの方法を開発することであった。

第三に、研究や実践プロジェクトの過程においては、領域を越えて、多様な専門職や地域住民の方達との連携・協働を重視することであった。

活動の特徴：

- ・所属大学・大学院における高齢者福祉及び認知症ケアに関する教育・研究活動に携わる。
- ・国内諸地域（宮古市、奥州市、遠野市、鎌倉市、名古屋市、東京都、その他）において回想法・ライフレビューを含む認知症ケアに関するプログラムの計画・実践・効果検証を行い、回想法・ライフレビューの意義と課題について蓄積する。
- ・国際的な活動に関して、共同研究・学会の理事・顧問や研究成果報告等を通して、諸外国の団体や関係者と連携・協働を重視して実践・研究を行う。
- ・認知症ケア・高齢者ケアを中心として、多様な対人援助専門職に対して、研修、スーパービジョンを実践し、人材育成に携わる。
- ・国内諸地域の高齢者大学、ボランティア組織への研修、及び家族介護者の方達への研修と相談に携わる。

活動の効果・影響：

大学・大学院、及び国内の各地域において、高齢者とのコミュニケーション、認知症の方とのコミュニケーションの基本と応用、非薬物療法の課題と実際、回想法・ライフレビューの実際と効果、相談援助の実際と方法、スーパービジョンの理論と実際等に関して、講義・講演・研修等を多面的に展開したことは、認知症ケアの礎を築く過程における多様な人材の育成に、微力だが役に立つことができたのではないかと考えている。

今後の活動予定：

- ・認知症ケアに携わる専門職を含めて、対人援助専門職へのスーパービジョン、コンサルテーションの実践及び研修を行う。
- ・地域のボランティアの方達からの相談や、市民後見人の領域の研鑽を深めて、地域において関係者の方々と共に、活動を展開する。
- ・スーパービジョンの理論と方法に関する実践と研究を継続し、スーパービジョンの文化の醸成をテーマとする著書の執筆と編集に携わる。
- ・回想法・ライフレビューに関する実践と研究を継続し、実践事例集の編集や理論書の執筆に携わる。